



センターWebページへ

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

ハイライト:

「平成23年度センター研修講座」を特集します。

当センターでは、幼児児童生徒一人一人が夢に向かって主体的に取り組むよう学習活動を充実させるべく、効果的な研修の実現に向けての取組を進めて参ります。

目次:

平成23年度 教職員研修講座の概要(1)	2
平成23年度 教職員研修講座の概要(2)	3
講座紹介・受講者の声	4
研究発表会レポート お役立ち情報	5

青森県総合学校教育センター センターだより

巻頭言

「実践的な研究を目指して」

当センターは、学校教育に関する専門的、技術的事項の研究を業務の一つとしています。そして、新しい教育の方向を見据えつつ、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ、先導的・実践的な研究を行っています。

具体的な研究内容としては、①確かな学力の向上に関する研究、②豊かな心や健やかな体の育成に関する研究、③学校教育の情報化に関する研究、④特別の教育的支援を必要とする子どもに関する研究、⑤教育相談・生徒指導に関する研究、⑥教員の指導力向上に関する研究、⑦継ぎ目のない教育に関する研究、⑧学習指導要領改訂の趣旨や内容に関する研究、等があります。

研究の種類は、①指導主事が、課の業務内容にかかわる教科・領域等において研究主題を設定して行う「課の研究」、②指導主事及び研究員が、課の研究主題を受けて、主に指導法の改善・充実に役立てるため、教科・領域等の分野毎に主題を設定して行う「教科等教育研究」等があります。

研究成果の還元については、①研究紀要としてまとめ、県内の各学校及び大学、教育関係機関への配布とともに、センターWebページでの公開、②青森県総合学校教育センター研究発表会での発表（今年度の詳細については「センター研究発表会レポート」をご覧ください）、③研修講座や外部依頼講義等での活用、等によって行っています。

今後とも、アクションリサーチ的な考え方も含めて、更に本県学校教育の諸課題の解決に役立つ、先導的・実践的な研究を目指していきたいと思っております。是非とも、青森県総合学校教育センター研究発表会（平成23年度は、平成24年1月6日に開催予定）に参加されたり、研究紀要を御一読いただき、忌憚のない御意見をお寄せください。



青森県総合学校教育センター
教育相談課長 渡邊 潔

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

平成23年度研修講座の概要（1）

青森県総合学校教育センターでは、本県学校教育の充実振興に資するため、青森県教職員研修体系に基づき、教職員の専門性及び資質能力の向上を図ることを目的とした研修講座を、【基本方針】を基に編成しました。

【基本方針】

- 1 教育活動の基本理念を重視する。
- 2 社会の変化に伴う教育課題の解決を支援する。
- 3 特色ある教育、特色ある学校づくりを支援する。
- 4 教職員のライフステージに応じた構成にする。
- 5 受講者にとって魅力ある講座内容とする。

【重点】

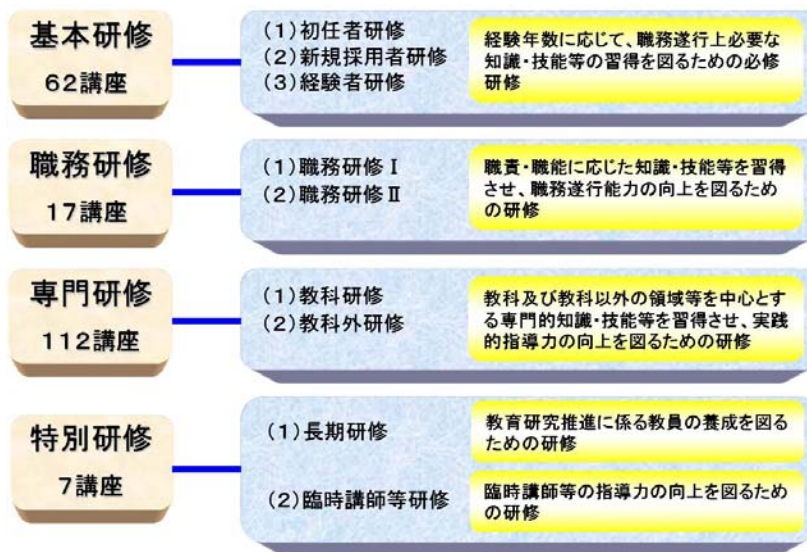
「基本方針」を踏まえ、次の①、②を重点として、研修講座の充実を図ります。

- ① 学習指導要領（教育要領）の趣旨・内容に対応し、次に掲げる内容を積極的に取り入れる。
 - ・「言語活動の充実」に関する内容
 - ・「個に応じた指導」、「特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育」についての内容
 - ・「指導と評価の一体化」についての内容
 - ・「教育の情報化」に対応した内容
 - ・「校種間の連携・接続」に関する内容
- ② 演習・協議などの活動を積極的に取り入れる。

平成23年度は、基本研修62講座、職務研修17講座、専門研修112講座、特別研修7講座の計198講座を開催します。全講座の中から、特色のある講座を次に紹介しますので御覧ください。

また、研修講座一覧表と研修講座予定表を各学校に送信しておりますので御覧になり、ぜひ受講してください。

【研修体系の概要】



【特色ある講座】

◆ 207 国語科教材開発講座

本講座では、青森県の作家や文学作品の教材化を通じて、児童生徒の郷土に対する関心を高める指導について研修を行います。今年度は、八戸市出身の作家・三浦哲郎氏について、1日目はゆかりの地を実際に訪ね取材しながら理解を深め、2日目は校種別に指導計画を作成して教材化します。また、それぞれの教材化の案を紹介しあうことで、小・中・高等学校それぞれの段階に応じた指導の在り方についても考察します。

◆ 242 算数的活動の楽しさを実感する小学校算数科教材活用講座

算数の楽しさ、算数の不思議さ・おもしろさなどを再発見できる授業づくりについて研修を深めます。そして、弘前大学教育学部准教授の中野博之氏を講師にお迎えし、講義「算数的活動を取り入れた教材の活用」を通して、先生方にも算数の楽しさを実感していただきます。

平成23年度研修講座の概要（2）

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート

◆303 感性をはぐくむ音楽科実技講座

本講座は、小・中・高等学校の歌唱に関する内容を一つにまとめ、校種間の継ぎ目を意識しながら、どの発達の段階でも共通にアプローチすることができる内容で講義を進めます。1日目午前は**共通教材**をはじめとする童謡・唱歌について、1日目午後と2日目は豊かな歌声を目指して具体的な**発声指導**を内容とする研修で、「ハモリのマジシャン」と言われる合唱指導者の坂本かおる氏を講師に迎え、実践と講義を行ないます。

◆502 小・中学校特別活動研修講座

子どもたちにとっても教師にとっても、一日の大半を過ごす学級で行われるあらゆる活動は、子どもたちの成長にとって大きな意味をもちます。今年度は、学級活動の在り方を、小・中学校のつながりという観点から考えていきます。そして、「知・徳・体」を目標に掲げる学校教育の中における特別活動のもつ意味を、杉田洋教育課程調査官の講義を通して学んでいきます。

◆601 不登校を生まない学級づくり研修講座

1日目：「不登校児童生徒の理解と支援の在り方」について4時間の協議。

- ・情報交換→課題の焦点化→解決の糸口を探る
- ・互いの事例について話し合い、理解の深化を図ります。

2日目：元気いっぱいの聖徳大学鈴木由美准教授による講義。

- ・「人は幸せになるために生まれてきた」そのために「幸せになるための選択をする」という論理療法の考え方を学びます。
- ・対人関係ゲームを取り入れた仲間づくりなど学級活動に取り入れやすい演習を交えた講義を通して、不登校の予防・対応について学びます。

◆602 いじめを生まない学級づくり研修講座

「いじめ」が起こった場合の対応のみならず未然防止に力を入れます。

1日目：「学級づくりに生かす構成的グループ・エンカウンター」を中心に講義・演習

2日目：いじめについて、もっと幅広い理解や知識と対応を学びたいという声に応じて

→講師 函館大学 金山健一先生

現場で役立つカウンセリングや教育相談の理論や技法を提供している函館教師サポート研究会を主催し、中学校教諭時代の生徒指導の体験を生かした実践的な内容の講演会を開いている金山健一先生をお招きして、さまざまな実践的な対応について、講演・演習をしていただきます。

◆706 特別支援教育コーディネーター研修講座

「特別支援教育コーディネーターって何をすればいいの？」そんな悩みを解消します。

本講座は、受講者の皆さんのニーズにお応えして、①5月開催、②2日日程、③受講者数の増員（30名）としました。短期集中的に特別支援教育コーディネーターに必要な知識・技能の習得ができるように構成しています。初めて指名された方から、課題解決に苦慮している方まで、積極的に参加できる講座です。幼稚園、高等学校の先生方の受講もお待ちしております。

◆801 校務で使える！表計算入門講座

802 校務で使える！表計算入門講座【八戸会場】

成績や住所など、たくさんのデータを取り扱う校務を効率的に進めるために、表計算ソフトの基礎的な機能と活用方法を学ぶ、「表計算の入門講座」です。実際にパソコンで成績処理と住所録作成の演習を行いながら、関数を用いた**データ処理**、**グラフ作成**、**並べ替え**、**ラベルの差し込み印刷**などの手順を学び、見やすい資料を作成します。さらに、**座席表**、**時間割表**及び**アンケート集計**など、学級での事務処理に役立つ演習を進めながらスキルアップしていきます。

◆808 授業に活用！ICT機器活用講座

「目線を上げて大きな資料で【みせる】授業をするための体験型研修」

演習する内容

- ・プロジェクタ、電子黒板、デジタルカメラ等を利用した事例の体験
- ・「拡大表示」させるスライドや提示素材を作成して実演練習

なお、電子黒板の活用に限定した講座は、「809 授業で使える！電子黒板活用講座」となります。

「講座番号323 図画工作・美術科教育研修講座〔鑑賞〕」

本講座は、青森県立美術館を会場として行われることに最大の特徴があります。図画工作科・美術科の学習指導要領の改訂の目玉である「子どもの思いを引き出すための鑑賞指導」に美術館との連携が欠かせないからです。

講座の1日目は、国立教育政策研究所教育課程調査官 奥村高明氏をお招きし、講義と実習を行いました。講義「美術館と連携した鑑賞指導の在り方」では、知識理解に偏ることなく、「子どもの目線で見ること」、「子どもの思いをいかに引き出すか」の重要性を確認しました。また、実習では、「アートカード」を利用した鑑賞指導について、様々なアプローチの方法を学びました。さらに、実際に美術館の作品を前にコーディネーターの役割をしながら、ギャラリートークの実習も行いました。

2日目は、県立美術館のスクールプログラムの紹介、所蔵作品の見方を広げるための作品解説を通して、実際に授業で使うための「鑑賞ワークシート」を作成しました。

◆受講者の声

- ・今まで「美術館」というと、美術についての高い知識や経験がないと踏み込めないイメージがありました。今回の講座を受けて美術館のとらえ方が変わりました。アイデアと工夫でたくさんの指導方法を生み出せるのだと思いました。
- ・アートカードゲームでは、カードを用いて子どもの様々な考えを引き出し、心を揺さぶることができるということがわかりました。アートカードは、美術館を小さくした世界であるという感じがしました。
- ・今まで鑑賞指導の仕方が曖昧でしたが、2日間の研修で「鑑賞って楽しい」と感じました。学校や実態によって、また、作品によって様々な出会わせ方があると思います。これから、学校現場で実践したいと思います。

「講座番号905 ICT教材開発長期講座」

本講座は教科教育のためのICTを活用した教材開発について研究し、授業におけるICT利活用推進の中核となる教員を養成するとともに、当センターで実施している情報教育に関する研修講座（講座番号800番台）で学んだ知識・技術をさらに活用して、実際の授業で使用する教科教育に関連する教材を開発することを目的としています。

今年度は4名の先生方が受講し、それぞれに研究を重ね、すばらしい教材・成果物を作成されました。受講された先生と研究テーマは以下のとおりです。

弘前工業高等学校 西村智道先生

「ExcelVBAを活用した資格取得状況管理ツールの作成」

八戸工業高等学校 田中昌勝先生

「プログラミング技術を体感し学習できる実習教材の作成～歩行ロボット製作入門～」

五所川原工業高等学校 高橋知義先生

「マルチメディアを活用し、交流における瞬時値の式の大きさや角周波数、位相、位相差を実際の波形と関連付けて理解できる教材の作成」

弘前実業高等学校 木田孝夫先生

「起業家教育学習ノートの作成」

最終日の研究発表会では、各自が研究・開発した教材やシステムの、作成手順や手法、使用方法についての詳細なプレゼンテーションが行われました。

◆受講者の声

- ・当初の構想通りの管理ツールを作成することができた。また実際に現場で活用している。日程も断続10日間で校務への支障も最小限にとどめることができ良いと思う。この研究をきっかけにExcelVBAについて、あらためて学習することができて良かった。
- ・生徒達が興味関心を持ちやすい「ものづくり」の導入として題材を選んだ。研修と並行して課題研究の授業でも同じテーマを設定し、生徒達と話し合いながら進めることができた。
- ・職場を離れて、研究に集中する機会はなかなか無いことであり貴重な体験であった。今後も研究を継続し様々な教材を開発していきたい。

「603, 604 教育相談初級講座」

本講座は、1日目に「学校における教育相談」として、Q-Uテスト、エゴグラム、PM理論、SGE・SSTについての講義、SGE・SST中心の演習を行いました。

2日目には明治大学文学部教授 諸富祥彦氏から「学校における面接相談の進め方ー基本的な技法を学ぶー」について講義・演習をしていただきました。特に、傾聴の技法やSGEの演習を中心に、保護者への対応等についてもお話いただき、諸富先生の個性あふれる楽しい語り口に、時が経つのも忘れるほど、充実した講義・演習となりました。

◆受講者の声

- ・構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの実践例は、明日からでも教室で行えるものばかりで、小規模校でいつも同じ友達しかいない中、気持ちを高めたり互いの存在を認め合ったり、自己肯定感を高めるためには、今日の演習は大変有効だと思いました。
- ・諸富先生の講義は実際のかつ具体的であり、時間の経つのがあっという間で、集中して取り組むことができました。具体的な事例を出して、講義をすすめてくださり、大変分かりやすかったです。近くの方と話を交えることにより、対応の難しさや今後の参考となる話も聞くことができました。

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート



図画工作・美術科教育研修講座の様子
(奥村高明教育課程調査官の演習)



図画工作・美術科教育研修講座の様子



ICT教材開発長期講座の様子
(田中先生の発表)



教育相談初級講座の様子
(諸富祥彦明治大学教授の演習)

1月7日（金）、「平成22年度青森県総合学校教育センター研究発表会」が当センターを会場に開催されました。この発表会は、当センターにおける研究成果を本県の教育の向上に役立てるという趣旨で、教育関係者はもとより広く一般の方も対象として毎年行われているものです。今年度は、参加者がより参加しやすいようにと1日の日程で行いました。

10年経験者122名、長期講座受講者16名、一般参加者は151名など悪天候にもかかわらず、県内各地から289名以上が参加され、センター研究発表会に対する関心の高さが感じられました。

発表は、指導主事、研究員、長期講座受講者の計30名が教育相談、特別支援教育、情報教育、教科教育の四つの分野に分かれて発表しました。いずれの発表も、今日的な教育課題をテーマにした内容であったため、参加者は真剣に聞き入り、充実した研究発表、質疑応答となりました。

教育相談では、「特別な配慮を要する児童が在籍する通常学級における人間関係を築く指導のあり方に関する研究」、「不登校児童生徒のための適応指導プログラムの開発」、「中学校における規律ある集団作りに関する研究」など7つの発表がありました。特別支援教育では、「発達障害児のための支援システムに関する研究」、「重度の知的障害を伴う自閉症児の参加機会の拡充による行動問題の改善」など6つの発表が、情報教育では、「校内ICT機器活用促進における研修体制・組織に関する研修」、「効果的な教科指導のためのICT環境に関する研究」など4つの発表がそれぞれ行われました。また、教科教育では、「英語科における自立的学習者の育成を目指した指導法の研究」、「学習指導要領の定着のための活動に関する調査研究」、「経験の中から伝えたい思いを見つけて随筆を書くことができる児童を育成する指導法の研究」、「面積の学習において、数学的な思考力・表現力を育てる指導法の研究」など13の発表が行われました。

お忙しい時期にもかかわらず、お出でいただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。来年度の研究発表会も、平成24年1月6日（金）の1日の日程で行う予定です。多数の参加をお待ちしております。



センター研究発表会
(部会別研究発表会－教科教育－)



センター研究発表会
(部会別研究発表会－特別支援教育－)

お役立ち情報

今年度第3次及び第4次購入分の新着図書の一部をご紹介します。今年度の新着図書の一覧はセンターWebページに掲載されています。なお新年度からは、これまで収集していた全国の各教育機関の紀要や研究報告等のほかに、県内の各学校の要覧やシラバス、センターが主催した講座の資料なども、図書資料室内で閲覧できるよう、現在準備を進めております。先生方の教育実践や研究にどうぞお役立てください。

書名	編著者	発行・出版社
「よくわかる青森県の経済と産業」	あomorい経済研究会	青森地域社会研究所
質的研究法による授業研究	平山満義	北大路書房
書く力が身につくイギリスの教育	山本麻子	岩波書店
各教科・領域等における道徳教育の進め方の実際	小島 宏	教育出版
授業に命を吹き込む「技」(学力が身に付く授業の「技」)	江間史明	ぎょうせい
学校教育とキャリア教育の創造	渡辺三枝子	学文社
応用行動分析から学ぶ 子ども観察力&支援力養成ガイド	平澤紀子	学研
本番に強い子を育てる!	高妻容一	アスペクト
心理療法の諸システム 第6版	プロチャスカ/ノークロス	金子書房
里海探偵団が行く	寺本 潔	農山漁村文化協会

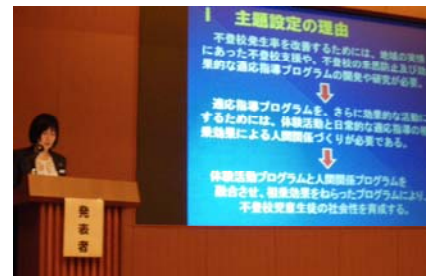
編集後記

総合的な学習の時間の指導資料として、全国の実践を基に「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)(中学校編)」が、文部科学省からそれぞれ公開されました。

今回の学習指導要領改訂によって総合的な学習の時間の時間数は縮減されることになりました。しかし、小学校3年生から高等学校卒業までの10年間の総合的な学習の時間の時間数を合計してみると最低でも575時間になります。

総合的な学習の時間は、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代において、これからも重要な役割を果たすものと期待されています。「探究的」「協同的」「体験活動と言語活動の充実」をキーワードに、この指導資料も参考にしながら今までの各校の取組をさらに充実したものにしていただきたいと思います。

(広報委員 神 和宏)



センター研究発表会
(部会別研究発表会－教育相談－)



センター研究発表会
(部会別研究発表会－情報教育－)

トップ

研修講座の概要(1)

研修講座の概要(2)

講座紹介・受講者の声

研究発表会レポート